

サギタリウスチャレンジ チャレンジ部門 結果報告

土に触れる ~共に作る喜び~

代表者 東野 恵

企画概要 農業はとても大変で一人では出来ませんが、私達には葵寮生という大きな家族があります。作物を作るということは、毎日手を抜くことが許されないしんどい作業ですが、寮生でこれを達成することにより、より団結した葵寮生にしたいと思う。

結果報告 最初は初心者でも成功率の高いサツマイモを育てる予定でしたが、畑を探すのに思ったより時間がかかって、実際に野菜の種を植えられるようになったのは、九月の初め頃になってしまいました。時期の関係で、当初予定していたサツマイモは植えられなくなり、冬でも収穫できるチンゲン菜や大根、白菜、ほうれん草を育てることにしました。

九月の初めに農家の方に耕運機で土を耕してもらい、うねまで作っていただきました。日をおいて肥料や、石灰をまき、竹酢液をまくところとまかないところに分け、育ち方の違いを見ようということになりました。私たちはすべて無農薬で育てていくつもりでしたが、山岸先生の提案で科学肥料を一部にまくことになりました。野菜作りに適した土が完成したところで、種を自分たちの手でまいていきました。

九月の中旬、努力のかいもあってほとんどの野菜の種から芽が出始めました。しかし、一部の白菜からは芽が出ていませんでした。芽の出なかった場所だけもう一度クワで耕し追いまきをしました。

芽が適度に成長してきたので、良い苗を二本くらい残し間引きをしました。もう少し成長してきたので、一番良く育っている苗を残し二回目の間引きをしました。間引いた作物は食べることができるので寮に持って帰りみんなでおいしくいただきました。

成長が思わしくなく、理由は化学肥料を使っていないということと、草引きが不十分だったためということを知り、みんなで草引きに行きました。

12月初めに成長したダイコン、ハクサイ、チンゲンサイを収穫しました。収穫の時期が遅れたため、ダイコンに“す”が入ってしまいました。化学肥料を使って育てた野菜と比べるために、山岸先生から野菜を分けてもらいました。収穫した野菜はお世話になった職員の方や、寮務職員の方と一緒に鍋パーティーをしました。地域の方々との交流も考えていたのですが、今年は残念ながら、実現させることはできませんでした。

今後については、新残寮生の中から続けたいという声があったので、もし協力が得られるなら来年度も引き続き挑戦し続けたいです。

感想 なかなか畑が見つからず、当初予定していたサツマイモを育てることができなくなり、予定は変わってしまい困っていると、工学部の山岸先生をはじめまわりの皆様方に助けられ、ダイコン、ハクサイ、チンゲンサイを育て収穫することができました。

9月に初めて畑を見て、ここで畑を作るのだとわくわくしました。うねを作り、堆肥をまき、種をまくことひとつひとつがすごく新鮮でした。毎日水やりに行くのが楽しみで早く芽

が出ないかなと思っていました。芽が出たときは本当にうれしくて飛び跳ねてしまいそうでした。

寒くなりはじめると成長が止まってきました。化学肥料を使わずに育てていたのに、山岸先生が同じ畑に化学肥料を使って育てていた野菜と比べると大きさにすごく差がありました。でも化学肥料を使わないと決めていたので小さくてもいいと思いました。

やっと収穫できるようになったときはうれしくて涙がでそうでした。その後鍋パーティーをしました。やっぱり自分たちで育てた野菜はとてもおいしかったです。

今回の企画を通して私たちは一人一人が自分の役割をきちんと把握しその役割に責任感をもつということが大切であるということ学びました。目的としていた地域交流は果たせませんでした。寮生としての団結力は高まったと思っています。

